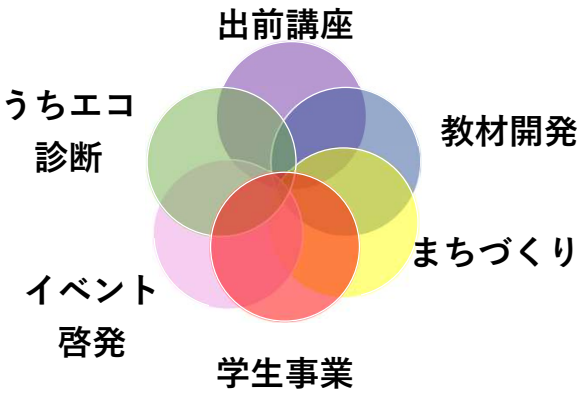
兵庫県地球温暖化防止活動推進員研修会

推進員とセンターが地域と共創する新しい環境学習

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター
キャリアアドバイザー　来田博美

滋賀県地球温暖化防止活動推進員の活動



自主的な活動

- 推進員同士のスキルアップを図るため、地域グループでの意見交換、学習会や、教材開発チームでの教材開発など推進員が自主的に活動を行っている
- センター事業中心に活動を実施。できるだけ、推進員の意見を聞き、推進員が活躍できる事業を企画し、センターと推進員が一体化して、実施している

滋賀県地球温暖化防止活動推進員とセンター事業

学生事業

- 県内大学生が大学と連携し、マイボトルの推進等自分の大学に合った形の企画をし、啓発を行っている

地域との関わり

- 地域への呼びかけ、学習会などを実施するとともに、地域特性をしっかりと理解し、地域でできる取組を企画し、地域住民と一緒に活動している
「しがCO_2ネットゼロまちづくり」

県民への普及啓発

- イベント会場などで、啓発を行い、関心の薄い層にも関心を持ってもらえるよう、様々な啓発教材を駆使して、実施している

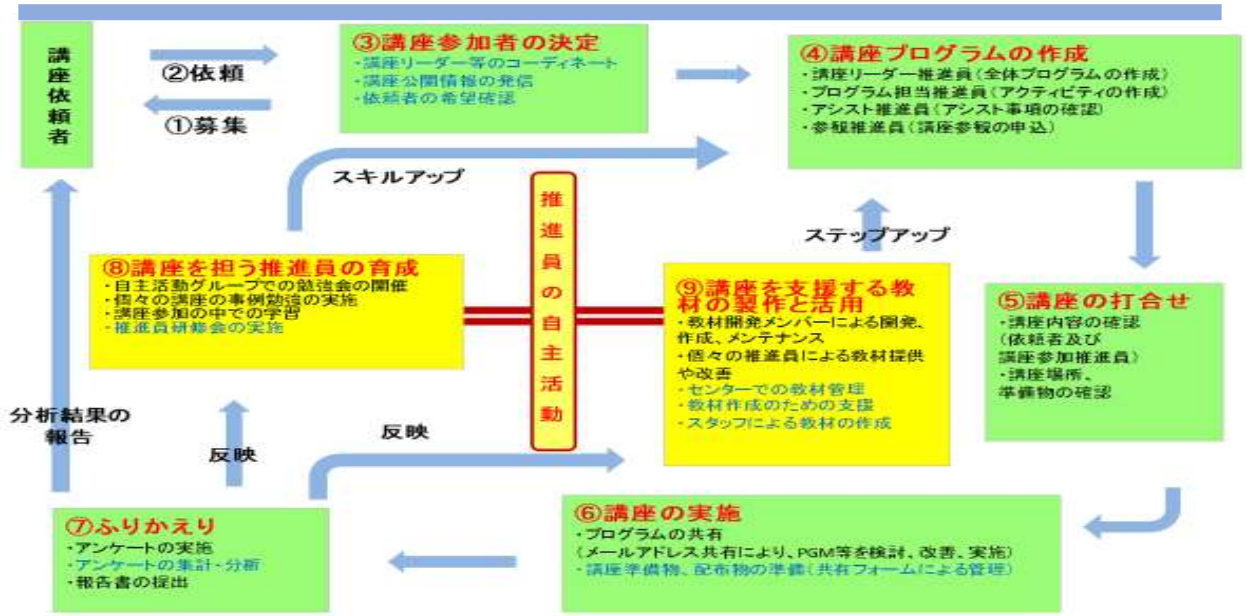
うちエコ診断

- 家庭訪問、オンライン、イベント会場での実施など様々な形で、診断を行っている

出前講座

- 年間１５０講座を実施
- 推進員が推進員を育て、スキルアップしていっている

CO２ネットゼロ社会づくり学習支援システム



出前講座の進め方

申込み → 打合せ → 講座実施

＜申込み＞依頼者とセンター
①できるだけ学校および教員の要望を聞く
②こちらからの条件、お願いを伝える
③今までの学習状況等授業の進捗を把握する
※どういった授業の単元の流れの中で、実施させるのかを把握し、それに適応できるプログラムの実施に繋げる

＜打合せ＞教員と講師
①現場へ行き、会場、生徒の様子を見る
②プログラムを持っていき、再度、教員より今までの学習状況等授業の進捗を確認しながら、教員の希望を聞く

＜講座実施＞
①生徒の様子を見ながら、適宜内容やレベルも変更する
②教員にも途中意見を聞きながら、クラスごとに対応する

出前講座の進め方

課題

- 教員の単元構想を理解できず、前後の関連性がわからないため、その場限りの講座となっており、効果が薄い
- 既に生徒が学習していることを把握できておらず、生徒たちからの発言の機会が与えられない
- 授業後の生徒の行動変容や成果がわからない

ESD推進ネットワークの新たな取組：「気候変動を切り口としたESD」(1/2)

近畿ESDセンター「脱炭素社会の実現に寄与する
ライフスタイルを促すESD学習プログラムの創造」

【参加者】学校教員、地球温暖化防止活動推進員、地域ESD拠点、社会教育施設、企業、学生等

【講師】奈良教育大学ESD・SDGsセンター

【実践者】 ★拠点は共に地域ESD拠点

①比叡山高等学校 /滋賀県地球温暖化防止活動推進センター

②箕面自由学園小学校 /林野庁近畿中国森林管理局箕面森林ふれあい推進センター

学校教員が拠点のプログラム（出前講座）を活用した「ESD学習指導案」を作成・実践

1回 2回 3回 4回

授業実践

①高校家庭科
風呂敷から考える
持続可能な未来

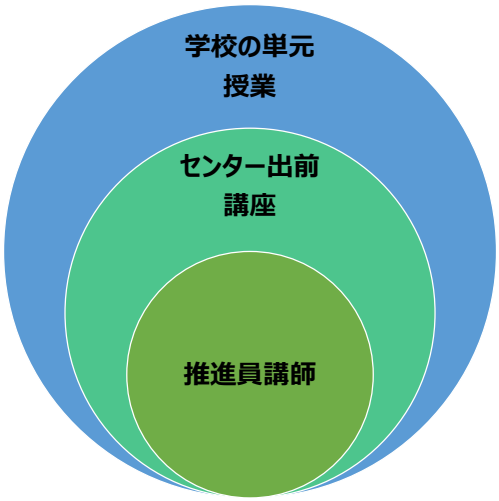
②小学校理科
「流れる水のはたらき」から
森林の役割や環境保全を考える

5回

★学校と拠点が授業のねらい・想いを共有することで効果的な連携につながった。
★参加者同士の意見交換・学び合いを生かして学習者の行動化を促す実践にブラッシュアップできた。

13

新しい出前講座のカタチ



**推進員とセンターと高校が協働して
新しい授業を創り出す**

＜教員の授業構想に最初から関わり、一緒に創る＞

①授業のねらいを一緒に考えることができる
②生徒の学習の流れに沿って、講座を組み立てられる
③途中で、生徒の様子を見ながら、変更ができる
④生徒の成果を知ることができる
⑤発展的取組にも繋げられる可能性がある

単元の目標

目標1

- 風呂敷を入口にして
  自らの価値観とライフスタイルの変革を促す

目標2

- 風呂敷を入口にして
  脱炭素社会を実現するための社会変革を先導する人材を育成する

単元構想

1見つめる

- 【問い①】「あなたが一つだけ常に携帯できるとしたらどれを選びますか？」
- 【体験】「実際にいろいろなものを入れてみよう」

2調べる

- 【問い②】「風呂敷にできることって何でしょうか？動詞で表現してみよう」

3深める

- 【問い③】「風呂敷は魔法の布である、という仮説を証明できますか？」
- 【体験】「真結びと風呂敷の活用方法」
- 【講義】「文化伝承とサステナビリティ」

4広げる

- 【まとめ】「風呂敷は魔法の布である」ことを世界に発信するための５分間プレゼンをする。

授業の内容

説明×納得型はＮＧ！

ダメダメ！

風呂敷の汎用性に気づき
日本の生活文化の共通性を知る

日本の生活文化って
サスティナブル！

脱炭素×社会変容！

社会変革のフロントランナーに
なる！

風呂敷の融通性に気づく！

クリティカルに考えてみよう！

風呂敷×脱炭素！

そのためには技法の習得も
マスト！

推進員・学校とのコーディネート

密に打ち合わせを行い、しっかりとコーディネートすることが重要

学校とのコーディネート

- **単元構想から関わる**
- **授業の狙い・思いを共有する**

講師側とのコーディネート

- **「やりたいこと」から「やってほしいこと」へ**
- **「説明納得型授業」から「発問中心の応答的な授業」へ**
  - **<u>答えを言わない</u>**

推進員とセンターと学校との共創

今まで

連携

- （学校）　普段と異なる講座をセンターに１時間だけ任せる
- （センター・推進員）学校の要望されたセンタープログラムを実施する

これから

共創

- （学校・センター・推進員）　一緒に単元全体の学習を考えながら、一連の流れの中で　最も効果的な学習を進める
  打ち合わせを綿密に行い、全員が単元構想を理解したうえで、学習の経過を見ながら、それぞれが適切に役割を果たす

推進員とセンターが地域と共創する環境学習

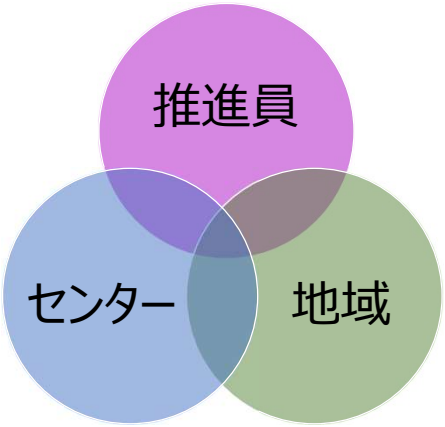
これからの展望

学校だけではなく、地域のさまざまな団体とも、目指すところを共有し、
企画の段階から一緒に考えて、効果的な講座を実施する

課題

継続したＥＳＤの必要性

これからの環境学習



推進員とセンターが地域と共創

- 地域に住む推進員、センターだからこそできる環境学習を、地域と一緒に企画の段階から進めていくことが重要
- すでにあるものではなく、地域、時代のニーズに合った学習プログラムを一緒になって開発していくことが必要

SDGsを目指して

SDGsを目指して、推進員とセンターが地域と共創する
新しいカタチの環境学習を推進していきます